



井の頭自然文化園

10号
2013年5・6月号

2013年(平成25年)5月1日

●編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 気付
電話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100周年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
武蔵野市観光推進機構
●制作支援
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あとちょうど4年

井の頭

吉祥寺

三鷹

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

INFORMATION 2013年5月～6月

井の頭自然文化園

企画展

●「御殿山鹿倶楽部——シカを知る」開催中!

動物としてのシカはもちろんのこと、シカと日本人の関係をさまざまな側面から紹介し、最後はシカと私たちの中で起こっている問題について知り、考える内容です。

2013年3月12日(火)～12月28日(土)
場所:動物園(本園) 資料館1階

★御殿山鹿倶楽部主宰・クイズラリー

鹿は、オスだけがツノを持ちます。それにちなみ、オスの持つ特徴に注目した、楽しく学べるクイズラリーです。

4月27日(土)～6月19日(日)

★開園記念日イベント

井の頭自然文化園は、5月17日で、開園71周年を迎えます。それを記念して、5月18・19日の2日間は、飼育係のスペシャルガイドなど、様々なイベントを行います。

★無料開園

5月17日の開園記念日は、どなたでも入園無料でお入りになれます。

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

井の頭恩賜公園

ネイチャー☆プログラム

ネイチャー☆プログラムとは…次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- おおぞら実験室(井の頭池付近) 5月5日(日)、6月2日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 5月12日(日)、5月26日(日)、6月9日(日)、6月23日(日)
- どんぐり広場(御殿山広場) 5月16日(木)、6月6日(木)
- みんなでゴルフ(御殿山広場) 5月18日(土)
- ツリー☆マジック(第二公園) 5月25日(土)、6月22日(土)
- おいしい運動会(御殿山広場) 6月22日(土)

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html>

井の頭かんさつ会

- 第97回「初夏の昆虫」 5月25日(土) 10:00～12:00
- 第98回「シダ」 6月23日(日) 10:00～12:00

事前申し込みが必要です。
詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。



アートマーケットと アスナアーティストな人々



環境問題に関心を寄せ、野鳥が大好きな高橋さん。

高橋弘美さん(生き物雑貨制作)

羊毛フェルトでつくられたミニチュアの野鳥やウサギは、精巧で愛くるしい表情をしています。「かわいい」「すごリアル!」と、足を止める人が跡を絶ちません。

子どものころから鳥が好きで、インコ数羽とコバタン、ほかにもウサギ、スナネズミなどたくさんの小動物に囲まれて暮らしているという高橋弘美さん。特技の絵を活かして、

10年前に鳥や小動物のイラストや小物をつくる「アトリエ山鳩」をオープン。制作の合間には、バードウォッチングをしています。

フェルトのミニチュアは、図鑑やペットをモデルに、細かくニードルを刺しながら形づくりします。「鳥の触ったときのほわっとした感じが、羊毛のやわらかさと似ているんです」と高橋さん。鳥の羽の微妙な色合いは、数色の羊毛を混ぜて表現し、ウサギの肉球など細かなところまで再現しています。「井の頭公園には生き物好きな方が多いですから。気が抜けません」と笑います。



小さな小さなカモの親子。

小田原 澤 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

アートマーケットは、主に土日祝日に開催しています。※特例で、5/1(水)・2(木)開催します。

はな子ライブ?

はな子は今年の冬を元気に乗り切ってくれました。しかし、寒い間は大事をとって早期入舎とし、室内観覧も午後3時までと、せっかくはな子に会いに来てくださったお客様にご迷惑をおかけしてしまい、心苦しく思っていました。そこで、観覧終了後のはな子の様子をご覧いただくため、3月半ばにゾウ舎の外壁にモニターを設置しました。元々、はな子の夜間の行動解析のために舎内の様子を事務室でモニタリングできるようになっていましたが、その回線を利用して42インチの大画面でライブ映像の放映が可能となりました。動物園サポーター資金で設置したこのモニターで、寒い冬期間だけではなく、これからの酷暑時にも空調を効かせた舎内でつるぐはな子の姿をご覧いただけます。

井の頭自然文化園 飼育展示係長 山本藤生



井の頭公園の生き物たち その10 オオクチバス

井の頭かんさつ会 田中 利秋 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外來魚問題にも取り組む。



オオクチバス

悪者は人間

悪名高き北米原産の肉食魚。別名のブラックバスは他のバスも含む総称です。井の頭池でも全長50cmになるものがあります。大きなヒレで猛ダッシュして獲物に襲いかかり、大きな口で丸呑みします。そのせいで、在来の小魚やエビ、水生昆虫が激減してしまいました。子ガメや水鳥のヒナも犠牲になります。在来水生生物の激減は、それを餌にするカイツブリなどの生息も難しくしました。

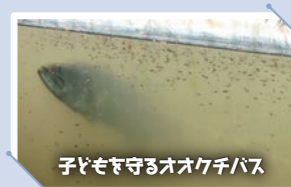
メスの卵巣は前年の秋には発達していて、井の頭池では桜の花が終わるころ他の魚に先駆けて繁殖を始めます。砂礫底にオスが産卵床を掘り、メスを誘って産卵させます。オスは卵が孵化し稚魚が十分大きくなるまで付きっきりで守ります。

そのため大部分の卵が稚魚に育ちます。1匹のメスが産む卵は数千から数万個と言われます。

バスが多くの卵を産み稚魚まで守る習性を進化させたのは、原産地には多くの強力な天敵がいるため、そこまでしないと子孫を残せないからです。そんな能力を持つ魚を天敵がほとんどいない日本に持ち込んだため、日本の生態系は壊滅的な打撃を受けたのです。オオクチバスを最初に日本に移入したのは武蔵野市に住んだ赤星鉄馬という著名人ですが、今、井の頭池で繁殖しているバスを池に持ち込んだのは、ここでバス釣りをしたいと考えた身勝手な誰かです。外来生物法で特定外来生物に指定され飼育も運搬も放流も禁止された今でも、密放流事件が全国的に起きています。

バスは放された場所で能力を最大限に発揮して懸命に生きています。バスに罪はありません。とはいえ害があまりにも大きいので駆除せざるを得ないのですが、そういう意味ではバスも被害者です。真の悪者は持ち込んだ人間であることを忘れてはいけません。井の頭池の外來魚は今後のかいぼりで一掃される予定です。その後に再び密放流されないよう、夜でも来園者が不審者を見つけて110番通報すれば警察が直ちに出勤する体制が整いつつあります。

茶色のつぶつぶは
みんなオオクチバスの子供たち



子どもを守るオオクチバス

10

たのみのつばさ

「楽園はよみがえるか!」



カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる、小さな水鳥です。池や川にカッパルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

「いのけん」講座 答え合わせ

問題1

2) 水を汲み出して干すこと

問題2

4) 広島のア佐動物公園

水生生物館で飼育しているオオサンショウウオは、1991(平成3)年に広島のア佐動物公園で生まれました。

カイツブリの楽園の復活は、外來魚が一掃され、在来の小魚やエビが増えるまで待つしかないようです。かいぼりで外來魚を駆除するとカイツブリが再び繁殖できるようになることは、すでに他のいくつもの池で確認されています。井の頭池のかいぼりが待たれます。池の水がなくなるとカイツブリは暮らせません。池の水がなくなるとカイツブリは暮らせません。かいぼり後には、今と同じ個体ではないかもしれませんが、再びカイツブリが井の頭池に飛来し定着するでしょう。それにしても、カイツブリのこじんまりとした肩羽の下に長距離を飛行できる翼がしまわれているとは、分かっていても信じ難いものがありますね。



カイツブリ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

せのうさちこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。

連載絵本 カメ吉の巻 その2
井の頭池から初めて玉川上水に進み出したカメ吉は、やっとむらさき橋までやって来ました。「この先には恐ろしい怪獣がいるウワサだから気を付けてね」と木の上でリスが教えてくれました。「君はどうしてそこにいるの?」と聞くと、2年前の台風で動物園のオリが壊れ、逃げたのだそうです。「タカがいるそっだから、君も気を付けて。」と言って、カメ吉は上流に進みました。 絵と文 せのうさちこ



写真 古賀 親宗 (こが もとりの)
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

十二年に一度の巳年の御開帳、
これまでにない大盛況!

今年巳年。四月の例大祭の日取りに合わせて井の頭弁財天の御開帳が行われました。十二年に一度の秘仏の公開とあって、週末を含む三日間に訪れた人はおよそ五千人。中日の日曜日には「お茶の水」の辺りまで長い行列ができたそうです。昔から人々の心を惹きつけてやまない弁財天。その魅力を探ります。



御開帳に先立って、弁天堂の脇に移設された「宇賀神像」。



平成 25年 4月 13~15日に行われた御開帳

薄明かりの中で目を凝らすと、ふっくらと柔らかな面立ちの弁天様。白い肌が、往年のつややかな彩色を思わせます。高さ50〜60cmほどの八臂(はっぴ)の座像で、それぞれの手に武器を持っているのですが、詳細を見極めることはできません。

御堂には厳かな読経が響き、香木を焚く馥郁(ふくいく)とした薄煙が立ち、つい目を閉じて手を合わせつつ「もっと見たい」と後ろ髪引かれながら参列の流れに押されて外に出ました。秘仏ですから写真や図版は出回っておらず、書物で詳細を調べることができません。十二年後、また来よう」と心に念じて帰路に着いたのでした。

弁財天の持ち寺である大盛寺に伝わる『神田御上水源井之頭弁財天略縁起』寛永十五年(1738年)によると、この像は伝教大師(最澄)の作で、源経基がここに安置したとされています。

また、江戸時代に両国の回向院や湯島天神などで盛んに行われていた「出開帳」の記録には、各地の有名な仏像と並んで「井之頭弁財天」の名も見られます。日本橋辺りから徒歩で往復すれば丸一日の遠方なので、神田上水の守神の市中での開帳には、たくさんの方が集まったことでしょう。

弁財天の起源はヒンズー教の水の神様。井の頭弁財天は、寛永八年の旱魃(かんばつ)の水加持で御利益があつて三代將軍家光が宮社を建てたと伝えられ、以来、四月の例大祭で護摩供養が続けられています。ただし、巳年だけは「華水供(けすいぐ)」という特別な供養。しかも今年は、通例一度のところで三度も。町の長老の話では、「例年がない大賑わいは、テレビで紹介されたからかな」。半被姿の氏子のみなさんが参列を仕切って大活躍。その様子を見るにつけ、江戸時代からの伝統を継承する心意気を感じました。

安田知代 (やすだ ともよ)
編集者・ライター。井の頭公園「まごころガイドブック」(『まごころ』)
吉祥寺駅周辺、40年 編集

私と井の頭公園 その10

平凡な主婦を変えた餌やり風景

大原 正子 (三鷹市在住)

三人の子供の一番下が高校生になり、私もPTAを卒業して、さて、これからは好きなコーラや音楽を聴くしもうと思っていました。本当に平凡な主婦の生活をしていました。当時犬の散歩で毎日井の頭公園に行っており、いつも私の犬を呼び止める一団が大量のエサをカモやカメに与えていました。皆良い人たちなのですが、そこに群がる生き物たちの姿は自然の姿とは程遠く、おぞましく、醜いものを見ました。

それを何とかできないものかと思っていったところ井の頭かんきつ会(注1)と出会い、エサやり自粛キャンペーンのお手伝いをするようになり、いつの間にか事務局を引き受けることになっていました。その時から私の生活が一変したのです。

それまで自然の生き物とは縁の無い生活だったのに、気が付いたらキッチンの窓辺に置かれているものが観葉植物から道端のエノコログサのような野草に変わり、井の頭池のモツゴ(注2)やタニシの入った水槽も鎮座しているのです。そして、時には夜中にまで公園の森の中を懐中電灯片手にウロウロして自然観察に夢中になっているという生活なのです。

何より変わったのは、池の魚といえはコイしか知らなかった私なのですが、外来魚が占拠している現実を知り、その駆除活動に一年の200日近くも携わっていることです。井の頭公園のすぐ隣りで生まれ育った私にとって、池の生き物たちは自分の大事な仲間たちなのです。彼らが外来魚によって絶滅するようなどはあってはならないことです。外来魚捕獲活動日には仲間たちと力を合わせ一日に5000匹ものブルーギル(注3)を捕獲することもあります。もしかしたら、個人活動レベルでは日本で一番多くブルーギルを捕獲している人間かもしれません(笑)。

それもこれも、自分がかつて癌を患ったことが根底にあるように思います。生きとし生けるものへの愛おしさが、癌からの生還とともに私の心の中に生まれたのです。そして井の頭公園の自然が、生き物たちが私の生活スタイルを変えてくれました。



(注1)井の頭恩賜公園で自然環境教育や生物多様性普及・啓発活動を行うことを目標に活動しているグループ。本紙の『井の頭公園の生き物たち』の執筆者田中利秋さんが代表。
(注2)在来種の淡水魚。関東ではクチボツとも呼ばれている。本紙創刊号で紹介。
(注3)北米原産の外来種の淡水魚。強い繁殖力によって井の頭池で一番多い魚類となっている。

(井の頭かんきつ会事務局長)
(聞き手・写真 川井信良)

よみがえれ! 井の頭池 10



▲ 2013年3月14日「よみがえれ! 井の頭池! かいぼりの実施に向けた検討会第2回」で、昔の池についてお話しされる須田孫七さん。

「かいぼり」2回目の検討会開催
目標めざして協働が始動!

平成25年度の冬場に予定されている「かいぼり」に向けて、2回目の検討会が開催されました。公園で活動する市民団体や周囲の町会などの方々と情報や思いを共有し、かいぼりを具体化するための検討会です。今回は、昔の井の頭池の動植物を熟知する須田孫七さん(現・東京大学総合博物館昆虫標本室協力研究員)と、千葉県立中央博物館の舟田池で「かいぼり」の実績のある林紀男さん(同博物館生態学研究所上席研究員)による講演も併催。井の頭池ならではの生態系と「かいぼり」の具体的な手法について深く知る機会となりました。

できるだけ昔ながらの生態系に近づけるよう、市川市で発見された絶滅種のイノカシラフラスコモを里帰りをさせたり、横浜市の三ッ池公園で活動する方々と連携したりする案も出されるなど、着々と協働の道が築かれています。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の「さん」を並べたものです。(奇数月1日の隔月発行です)

『いのきちさん』のホームページができました! 更新中!
<http://www.inokichisan.com/>

『いのきちさん』の感想やお問合せはメールでも受付けています。
✉ inokichi@bun-shin.co.jp

『いのきちさん』を置いていただける所を募集しています。



『いのけん』(井の頭公園検定)講座 10

第2回 井の頭公園検定(いのけん)が
2013年12月15日(日)に決定しました!!
(詳細は後日発表)

- 問題1 井の頭池の浄化と外来種駆除のために、来年「かいぼり」が予定されていますが、「かいぼり」とは何でしょう。
- 1) 大量の水を注水し、現在ある水を押流すこと
 - 2) 水を汲み出して干すこと
 - 3) 池をもっと深く掘り水量を多くすること
- 問題2 井の頭自然文化園水生物館の人気者オオサンショウウオは、どこの動物園からきたのでしょうか。
- 1) 名古屋の東山動物園
 - 2) 横浜の横浜ズーラシア
 - 3) 東京の多摩動物公園
 - 4) 広島のア佐動物公園

答えは裏の面にあります。